



学校だより

校訓：豊かき・確かき・たくましさ

小田原市立橋中学校

令和8年5月22日発行 第2号

小田原市立橋中学校

校長 松澤 文恵

自ら学び共に育つ



満開の桜に歓迎されて始まった新年度も、風薫る季節を迎えました。入学、進級した子どもたちは新しい環境の中で、毎日生き生きと生活をしています。

本校では、学校教育目標「自ら学び、共に育つ」の実現に向けて、教職員が一丸となって、教育活動に取り組んでいます。この目標の実現は、子どもたちが将来、社会や世界と関わり、よりよい人生、よりよい社会を創るための素地づくりだと考えています。

来週の運動会では「自分たちの手で創りあげる」ことを目標にリーダーたちが中心になって取り組んでいます。子どもたちの成長ぶりを楽しみにしててください。

掃除の橋

橋中学校の校舎は新しくはないけれど、いつもピカピカに磨かれています。一日10分の掃除の時間に、生徒が心を込めてお掃除をしてくれるからです。

4月8日(水)3年生が新1年生に自分たちが手縫いして作った雑巾を手渡しました。この雑巾は掃除をとおして心も成長させてきた3年生から新1年生への「掃除の橋」の心意気を込めたプレゼントです。

毎日の掃除の時間には3年生が1年生の掃除場所に赴き、掃き方や拭き方を丁寧に教えながら5月の連休明けまでずっと一緒に掃除をしてきていました。



「今日は雨なので、雑巾は固く絞るか、水に濡らすのを半分にしてください」と細やかな3年生の指示に、1年生も一生懸命に応えていました。



先日、朝から雨模様だった日に、「今日は濡っているから雑巾は濡らさない方がいいよね」と1年生同士の会話が聞こえてきました。3年生の「掃除の橋」の心意気がしっかり伝わり、1年生も自分事として掃除に取り組んでいることにとても嬉しくなりました。



京都・奈良 修学旅行（3年生）

5月16日(土)から18日(月)に3年生が京都・奈良方面へ修学旅行に行きました。班別自主見学、友達との宿泊、最高気温 34℃の盆地の暑さ等々、多くのことを体験し学びを深める機会となりました。



「初めての修学旅行」

今回初めて担任として修学旅行を引率することとなり、生徒が奈良や京都を学ぶとともに、私自身も学ぶ良い機会となりました。

奈良では「鹿しか興味がない」と言っていた生徒たちが実際に奈良の町を歩き、東大寺などの文化遺産を目にした瞬間、自然と声を失って見上げていた姿が印象的でした。また教科書で見ていた歴史が「本物」として目の前に現れたことで、表情が少しずつ変わっていったように感じました。

京都でも清水寺や金閣寺などの歴史ある建物を見て、そのスケールに圧倒されている様子でした。これから生徒たちの歴史への見方も少しずつ変わることを願っています。班別活動では、道に迷ったり、予定通りに進まなかったりする場面もあったようですが、互いに声を掛け合いながら行動する姿に成長を感じました。仲間を気遣う姿や、教室だけでは気づけない一面も見る事ができました。帰りの新幹線で疲れた表情の中にも、達成感が垣間見え、本当に充実した3日間を送ることができたのだと思いました。私個人としても、生徒たちと同じ景色を共有できた心に残る修学旅行になりました。修学旅行のさまざまな経験から、さらなる成長をすることができた3年生の今後がとても楽しみです。

(3年2組担任 片平寿弥)

